

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護学概論		寺師 敬子		1年生	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(30)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護の概念・機能と役割・対象 健康の定義 看護理論 法的責任				
到達目標	看護の概念及び看護の機能、看護の対象について理解を深め、それをもとにして自己の看護観・人間観を発展させる。保健医療における看護の役割を認識する。あらゆる健康上の問題をもつ対象への看護実践の基礎となる。				
事前学習	事前学習課題：看護とは・看護師の魅力／ナイチンゲール・アメリカの看護／看護理論家についてレポート				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	看護学概論の授業について (事前学習課題：看護とは・看護師の魅力)の共有
2・3・4	①看護師の定義と看護師の役割 ②看護の歴史 アメリカ・日本 ③看護の歴史と看護教育制度の変遷
5	専門看護師・認定看護師・養成制度
6・7	看護理論と看護理論家の理解 理論の範囲 (事前学習課題 看護理論家について) 看護の機能と役割
8・9	看護の役割と機能、看護の継続と連携
10	看護における倫理 職業倫理としての看護倫理 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 倫理原則
11	看護技術の特徴・看護技術の基本原則 看護技術の実践に求められる能力
12	健康とは何か・障害とは何かを理解する 看護と経済・医療保険制度
13	看護の提供の仕組み マネージメント 看護サービスの管理
14	医療の中の協働
15	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院 フロレンス・ナイチンゲール看護覚え書き 現代社
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護過程		林 なおみ		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護過程の構成要素、問題解決過程				
到達目標	看護過程の概念がわかり、ヘンダーソンの看護理論を活用して看護過程の方法が理解できる。				
事前学習	1. ヘンダーソンの看護理論「看護の基本となるもの」 2. 提示された事例の疾患、症状、検査、治療、看護・対象理解等				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	看護実践と看護過程
2	看護過程の各段階 1) 情報収集
3	2) ヘンダーソンの枠組みを用いて情報整理とマズローの基本的欲求
4	3) アセスメントの枠組みの中で情報分析をする、情報の持つ意味
5	4) 全体像の把握と看護問題の明確化
6	5) 看護計画の立案
7	6) 実施と評価
8	7) 看護記録 (1) 看護記録とは (2) 記載・管理における留意点
9・10・11 12・13	紙上事例 1) 事前の学習課題の確認 2) 情報の整理 3) アセスメント 4) 全体像と関連図、看護問題の明確化 5) 看護計画の立案
14	1. 看護過程のメリット、クリティカルシンキング 2. 看護過程を活用し看護を展開するために必要なもの
15	看護過程のリフレクション
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メジカルフレンド社 ヘンダーソン看護論の実際 ヌーヴェルヒロカワ 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 疾患別看護過程の展開 学研 今日の治療薬 南江堂 わかる検査値とケアのポイント 医学書院 基礎看護学実習要項
成績評価の方法	事前学習課題提出(30%) 最終看護過程展開提出(70%)
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護研究		寺師 敬子 学内教員		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室 情報処理室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。				
学修内容	看護研究行う意義を理解し、実践した看護を論文作成の過程を通して振り返る。				
到達目標	ケーススタディを行うことで、研究を行う意義、研究計画書の作成の方法、論文作成の過程が理解できる。 実践した看護を振り返り、よりよい看護を考えることができる。				
事前学習	実習記録・患者情報の整理				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	講義：看護研究とは何か。ケーススタディとは何か。
2	講義：ケーススタディのすすめ方
3	講義：研究における倫理的配慮
4	講義：研究計画書の作成、文献検索
5	講義：論文の構成と書き方
6	演習：文献検索・論文作成（はじめに、事例紹介）
7・8	演習：論文作成（看護の実際）
9	演習：論文作成（考察）
10	演習：論文作成（考察～結論）
11・12	演習：抄録作成
13	講義；研究発表の方法
14	ケーススタディ発表会
15	ケーススタディ発表会、評価
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院
成績評価の方法	出席状況、研究論文、抄録、発表態度
備考	抄録集を作成する。卒業論文として取り組み、発表会で発表する。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術 コミュニケーション技術		脇田 真由美		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(20)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護における・コミュニケーション・インフォームドコンセント・看護師の役割・看護倫理				
到達目標	看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。 看護倫理について理解し看護者としての責任を自覚できる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	自分のことを話してみよう
2	コミュニケーションの基本と構成要素
3	自己理解・他者理解(偏愛マップを使って)
4	フィードバックレッスンリフレクション 傾聴
5	看護理論とコミュニケーション
6・7・8	看護における人間関係成立のためのコミュニケーション 出会い 聴く 話す (演習)
9	アサーティブネス
10	言語障害のある患者へのコミュニケーション 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 認知症のある患者へのコミュニケーション
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護学生のための心理学 医学書院 患者―看護婦関係を学ぶロールプレイングを活用して 星和書店
成績評価の方法	医療安全と感染防止の技術を併せて筆記試験
備考	医療安全と感染防止の技術を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術 医療安全		寺師 敬子		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学修内容	医療事故と看護事故 危険因子 ヒューマンエラー ヒヤリハット				
到達目標	1 医療事故の発生する要因を理解し、事故を回避するための基礎的知識を修得する 2 医療機関における組織的な安全管理体制への取り組みを理解する 3 看護職を選ぶことの重さと医療安全努力の責務を自覚する				
事前学習	医療事故の定義 看護事故の2種5群 間違いによる事故防止3ステップと予測への事故防止2ステップ				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	医療安全を学ぶことの大切さ 人はなぜ間違いをおかすのか「ヒューマンエラーについて」 事故がおこる原因 ～ 事例 ～から学ぶ ヒューマンエラーと医療事故 医療事故の現状
2	看護事故の構造 2種5群 間違いによる事故の防止3ステップ、危険の予測への事故防止2ステップ
3	医療安全とコミュニケーション
4	労働安全衛生上の事故防止 組織としての医療安全対策
5	リスク感性を磨く危険予知トレーニング
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 医療安全ワークブック第3版 医学書院
成績評価の方法	コミュニケーションと感染防止の技術を併せて筆記試験
備考	コミュニケーションと感染防止の技術を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
共通基本技術 感染防止の技術		渡邊 初美		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(15)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	標準予防策 感染経路別予防策 洗浄・消毒・滅菌 感染性廃棄物				
到達目標	感染成立の条件及び院内感染の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行うことの重要性を理解する 手指衛生・個人防護具の着脱・無菌操作を学び、正しく実践できる				
事前学習	感染成立の条件及び院内感染防止の基本 衛生的手洗い、個人防護具の着脱、無菌操作の手順、根拠と留意点				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止の定義と発症、感染の成立過程 ・標準予防策の基礎知識 ・標準予防策の対策と実際 衛生的手洗い 演習
2	<ul style="list-style-type: none"> ・感染経路別予防策（接触感染 飛沫感染 空気感染）の基礎知識 ・標準予防策の対策と実際 衛生的手洗い 演習
3	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄、消毒、滅菌の基礎知識 ・感染性廃棄物の取り扱い ・カテーテル関連血流感染対策 ・針刺し防止策
4	個人防護具の着脱 無菌操作の技術演習
5	衛生的手洗い 個人防護具の着脱 無菌操作の技術演習
6・7	実技試験（衛生的手洗い 個人防護具の着脱 無菌操作）
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 新体系看護学全書Ⅱ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	コミュニケーションと医療安全を併せて共通基本技術の筆記試験
備考	コミュニケーションと医療安全を併せて共通基本技術の1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅰ 環境		大里 勝行		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(14)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	環境と健康の関係の理解、病床環境整備の意義と実際				
到達目標	環境整備の意義を理解し、環境整備が安全安楽に実施できる。				
事前学習	環境と健康との関係について事前学習提出 評価対象 (ナイチンゲール看護覚え書き参照)				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	療養生活の環境 環境と健康との関係 病室の環境と調整 個室と多床室 一般病床と療養病床 温度・湿度、光と音、色彩、空気の清浄性とにおいて、人的環境
2	病床について：ベッドの名称 取り扱い 病床環境のアセスメント
3	ベッドメイキングの実際 ①シーツの準備：たたみ方 下シーツの敷き方：三角コーナー ②上シーツの敷き方：四角コーナー ③ベッドメイキング：クローズドベッド作成デモンストレーション など
4	デモンストレーション：クローズドベッド作成・演習
5	臥床患者のシーツ交換デモ・演習 環境整備の実際
6・7	実技試験 振り返り
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院、 新体系看護学全書 基礎看護技術Ⅱ メジカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研 ナイチンゲール看護覚え書き 現代社
成績評価の方法	活動と休息と併せて筆記試験
備考	活動と休息と併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅰ 活動と休息		長井 安代		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(16)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	体位・ボディメカニクスの原理の理解と活用・体位変換 移乗・移送・睡眠と睡眠障害				
到達目標	人間にとっての活動と休息の意義が理解できる。 安全・安楽・ボディメカニクスを活用とした体位変換、移動の技術ができる。				
事前学習	ワークシート(体験したことの感想や考え)				

授業計画

No.	授業内容
1	身体を動かさないとどうなっていくのか いろいろな体位を体験してみよう
2	実際に介助して動かしてみよう ボディメカニクス・体位変換・水平移動
3	実際に車椅子・ストレッチャーに乗って体験・経験してみよう 移動・移乗・移送の援助
4	睡眠と休息
5	技術試験デモンストレーション
6	技術試験 「体位変換・車椅子移乗・車椅子移送」
7	技術試験 「体位変換・車椅子移乗・車椅子移送」
8	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	環境と併せて筆記試験
備考	環境と併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅱ 食事		脇田 真由美		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(14)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学修内容・食事	健康と食事の意義、食事に必要な機能を理解し安全な食事援助がわかる				
到達目標・食事	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の意義と食事援助を行う態度を理解できる ・栄養と食行動のアセスメントができる ・食事援助の実際が理解できる ・経鼻経管栄養法の注入技術を修得できる 				
事前学習・食事	栄養評価基準 BMI 水分出納 検査データ 咀嚼と嚥下機能				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	栄養・食行動のアセスメント 栄養状態・摂取能力・嚥下機能・姿勢・環境
2	医療施設で提供される食事について 食事介助の基礎知識
3	食事療法・食事援助の目的・看護師の役割 援助の実際(座位・臥位)
4	非経口的栄養：目的・種類と方法 (経鼻経管栄養 経腸栄養 静脈栄養 中心静脈栄養)
5	経鼻経管栄養法：チューブ挿入の実際 技術試験デモンストレーション(経管栄養法)
6 7	経鼻経管栄養法 注入技術演習
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	排泄と併せて筆記試験
備考	排泄と併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅱ 排泄		有田 敏子		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(16)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学習内容・排泄	排泄の意義とメカニズム、アセスメント方法 自然排尿・排便介助法 一時的導尿・持続的導尿について 便秘のアセスメントと便秘改善の援助 ストーマケア				
到達目標・排泄	・排泄援助の基礎的知識を修得し、援助方法を理解する ・排泄援助を提供する看護師に求められる基本的姿勢を理解できる				
事前学習・排泄	排泄観察記録 排泄のメカニズム				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	・排泄の意義について(生物学的、心理的、社会的) ・排泄援助の基本的姿勢 プライバシー、自尊感情へ配慮した看護の姿勢
2	・排泄が成立する一連の行動 ・排泄の情報収集とアセスメント
3	自然排尿および自然排便の介助 ・トイレの使用、誘導 ・ポータブルトイレの援助 ・床上排泄(尿器・便器を用いる方法) ・おむつによる援助方法(基礎知識、援助の実際)
4	排尿障害時の援助:一時的導尿、膀胱留置カテーテルの管理方法 排便障害時の援助:排便を促す援助と便秘改善のケア ストーマケア(肛門・尿管)
5	グリセリン浣腸・摘便(演習) 排泄技術演習 デモンストレーション
6・7	排泄技術 演習
8	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	食事と併せて筆記試験
備考	食事と併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
日常生活援助技術Ⅲ 清潔衣生活		中島 久代		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	清潔と衣服の意義、清潔を保つ日常生活援助の方法				
到達目標	清潔と衣服の意義を理解し、清潔を保つ日常生活援助が習得できる。				
事前学習	病衣の条件、入浴・全身清拭と寝衣交換・洗髪・足浴・陰部洗浄・口腔ケアの方法				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	人間にとっての清潔の意義と衣服の意義
2	清潔援助の基礎的知識
3	患者の状態に応じた援助の方法と留意点
4	病床での衣生活の援助
5	清潔援助の方法 1) 入浴・シャワー浴・陰部洗浄・口腔ケア
6	2) 全身清拭と寝衣交換の基礎的知識と実際 (演習)
7・8	陰部洗浄の実際、足浴の実際 (演習)
9・10	全身清拭技術試験
11	3) 洗髪の基礎的知識
12	4) 口腔ケアの実際 (演習)
13・14	洗髪の技術試験
15	まとめ、終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
ヘルスアセスメント バイタルサイン		林 なおみ		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(17)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	バイタルサイン測定の意義と測定の方法と留意点				
到達目標	バイタルサイン測定の意義を理解し、正確なバイタルサイン測定ができる				
事前学習	体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法				

授業計画

No.	授業内容
1	バイタルサイン測定の意義、体温測定の方法と留意点
2	脈拍と呼吸測定の方法と留意点
3	血圧測定の方法と留意点
4	バイタルサイン測定の実際 (演習)
5	バイタルサイン測定の実際 (演習)
6	技術試験：バイタルサイン測定と報告
7	技術試験：バイタルサイン測定と報告
8	体温表の記入とアセスメント
9	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	フィジカルアセスメントと併せて筆記試験
備考	フィジカルアセスメントと併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント				1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(28)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である。				
学修内容	解剖生理を理解し正常な状態、異常な状態を考察し判断する。				
到達目標	基本的なフィジカルイグザミネーションが実施でき、正常な身体状況が判断できる。				
事前学習	身体の臓器の位置、機能の理解。(心臓 肺 肝臓 筋肉など)				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	ヘルスアセスメントの意義と目的 観察：主観的情報、客観的情報
2	専門用語 体表面の解剖学的名称、症状名 体内の臓器の位置
3	フィジカルイグザミネーションに必要な技術(視診・触診・聴診・打診) 身体計測の実際とアセスメント(身長、体重、胸囲、腹囲、握力、視力検査)
4	体表面の観察とアセスメント (皮膚、爪、指、頭髮、外眼部、リンパ節、甲状腺)
5	アセスメントに必要な知識：心臓・肺の解剖生理
6・7	フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント(演習) ①呼吸器系 ②循環器系
8	アセスメントに必要な知識：門脈側副路・浮腫の解剖生理
9・10・11・12	フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント(演習) ③消化器系 ④運動器系 ⑤感覚器系 ⑥中枢神経系
13	事例検討：症状に必要なイグザミネーションを実施(演習・発表)
14	心理・社会的状態の観察とアセスメント 行動的側面、認知的側面 人間関係、経済的問題
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 医学書院
成績評価の方法	バイタルサインと併せて筆記試験
備考	バイタルサインと併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
診療の補助技術 I 与薬		有田 敏子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	与薬の意義 看護師の役割 与薬方法の理解・演習				
到達目標	与薬の援助技術の基本を学び、安全な与薬の方法が実施できる。				
事前学習	与薬に関する法律 与薬の6R 薬物の作用吸収経路 与薬法				

授業計画

No.	授 業 内 容
1・2	第9章 与薬の意義と看護師の役割 法律 薬の管理(毒薬、劇薬、麻薬の管理) 与薬の種類と吸収排泄経路 医療事故 注意を要する薬
3	経口与薬法 点眼法 点鼻法 塗布・塗擦法 坐薬法(グループ学習発表)
4	与薬の実際(経口与薬法 ダブルチェック 坐薬法)
5	注射法の種類と方法(皮内、皮下、筋肉、静脈) 与薬の計算、輸血、中心静脈栄養
6	注射器の接続と薬液吸引 注射部位の選択の実際
7	皮下注射の実際(演習)
8	筋肉注射のデモンストレーション 演習
9・10	筋肉注射の演習(注射部位の選定)
11	筋肉注射の演習
12・13	実技試験 振り返り
14	留置針挿入と輸液ポンプ、輸注ポンプの取り扱いの実際(演習)
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院、 新体系看護学全書 基礎看護学技術Ⅱ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	グループ学習発表 筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
診療の補助技術Ⅱ 検査		渡邊 初美		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学修内容	検体検査、生体検査、生体情報のモニタリングの種類・目的 診察・検査・処置を受ける患者の看護 採血に必要な看護技術				
到達目標	検査値・生体情報から患者の状態をアセスメントすることを理解する 診療を補助する上で安全・安楽、正確な情報を得るための援助を学ぶ 検査を受ける対象の心理を理解し、安全・安楽の援助を学ぶ 採血の看護技術が安全・安楽に実践できる				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	臨床検査の目的・種類、検査における看護師の役割 検査を受ける患者への説明事項 検査に伴う危険とその防止
2	検体検査と看護① 尿・便・喀痰の目的、採取方法、注意点 検体検査に必要な検体スピッツの各種
3	検体検査と看護② 血液検査(静脈血採血 動脈血採血 血糖測定) 生体情報モニタリング(動脈圧測定モニター パルスオキシメーター)
4	検査値を読み取る アセスメント
5	生体検査と看護① 心電図(標準十二誘導心電図、運動負荷心電図、ホルター心電図 モニター心電図) X線撮影、コンピューター断層撮影CT、磁気共鳴画像MRI
6	生体検査と看護② 内視鏡検査、超音波検査、肺機能検査スパイロメトリー、核医学検査
7	生体検査と看護③ 胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺の目的、採取方法、注意点
8	生体検査と看護③ 穿刺体位の実際
9	静脈血採血援助の実際(採血部位の選択、準備～手順、注意点)
10	駆血方法演習 シュミレーターへの採血演習
11	静脈血採血 技術演習 デモンストレーション
12	静脈血採血 技術演習
13・14	静脈血採血 技術演習発表
15	まとめ・終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書Ⅱ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研 系統看護学講座 別巻 臨床検査・臨床放射線医学 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
臨床判断		池田 恵子 長井 安代		3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (15)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	患者の状態をアセスメントし臨床判断能力の基礎を養う				
到達目標	1. フィジカルアセスメントに必要な情報がわかり、患者の観察ができる。 2. 対象の状況をアセスメントできる。 3. 状況に応じた看護介入を判断できる。 4. 臨床判断に必要な思考過程を理解できる。				
事前学習	各事例に対して病態、症状、看護を事前学習しレポート提出する				

授業計画

No.	授 業 内 容	
1	臨床判断の基礎知識 事例に活用する解剖生理・病態・薬理の知識	協同学習
2・3	気づきのトレーニング、解釈のトレーニング 事例：老年・誤嚥性肺炎 or 尿路感染 呼吸音の異常を聞き分け、体位変換や吸引の必要性を判断する or 患者の状態を観察し発熱の誘因をアセスメントする	シミュレーター 協同学習
4・5	気づきのトレーニング、解釈のトレーニング 事例：成人・うっ血性心不全 or 化学療法初回投与 患者の状態をアセスメントし、呼吸困難への対応や報告を判断できる or 副作用を判断しつつ患者の観察ができる	シミュレーター 協同学習
6・7	気づきのトレーニング、解釈のトレーニング 事例：成人・術後患者 or 起立性低血圧 開腹術直後の全身状態の観察ができる or 異変に気づいて離床の中止ができる	シミュレーター 協同学習
8	終講試験	
履修上の要件	基礎看護技術の共通基本技術Ⅰ・Ⅱ・日常生活援助技術・ヘルスアセスメントが終了していること。	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 医学書院	
成績評価の方法	筆記試験	
備考		

授業科目名		担当講師名		対象学年	
臨床看護技術		脇田 真由美・長井 安代 学内教員		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(45)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	臨床看護技術の習得				
到達目標	健康障害を持つ対象を理解し、患者の状態に応じて、根拠をふまえた看護技術を適応する基礎を習得できる。				
事前学習	各事例に対して病態、症状、看護を事前学習しレポート提出する				

授業計画

No.	授 業 内 容		
1・2	発熱のある患者への援助技術 褥瘡	講義・演習	脇田
3・4・5・6・7	呼吸困難のある患者への援助技術 酸素投与、ネブライザー、体位ドレナージ 口腔鼻腔吸引、気管内吸引	講義・演習	長井
8・9・10・11	点滴・ドレーンのある患者の援助技術 点滴管理、寝衣交換	講義・演習	脇田
12・13・14・ 15・16	麻痺のある患者への看護技術 移乗動作、ポータブルトイレでの排泄援助	講義・演習	
17・18・19・ 20	排泄(排尿)の援助技術 膀胱留置カテーテルの挿入と管理	講義・演習	
21・22	技術試験(OSCE:寝衣交換、排泄援助)		
23	終講試験(筆記試験)		
履修上の要件			
テキスト、教材、 参考書	基礎看護学別巻 看護技術の患者への適応 メヂカルフレンド社 疾患別 看護過程の展開 学研 看護過程に沿った対症看護 学研 看護技術プラクティス 学研		
成績評価の方法	筆記試験と実技試験		
備考			

授業科目名		担当講師名		対象学年	
地域と暮らし		大里 勝行 中島 久代		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(30)	教室 フィールドワーク	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	学校周辺を探索し地域を知る。地域に暮らす人々の生活の実際を見る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の風土・文化を知り、地域に住む人々とその暮らしを理解する ・地域の特性(強み、弱み)を理解する ・地域で暮らす様々な人たちとの話しながら、思いを知る 				
事前学習	自分たちの故郷について調べ学習				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	暮らすということ ～グループになり自分の故郷自慢を行おう～
2・3	学校周囲の探索 小湊集落 ～面積・位置・人口・公共施設・学校・畑・神社など～ 探索結果のグループワーク
4・5	小湊集落に出向き、小湊集落を知る(小湊歴史散策) フィールドワーク ・小湊集落出身者の方から歴史、文化、集落の特性、地域行事や取り組み など実際に散策しながら学ぶ
6・7	小湊地域散策 グループワーク・まとめ発表
8	小湊地域の住民を方言の先生役になっていただき方言に触れる
9・10	小湊小学校稲作活動 稲刈り参加
11	八月踊り 練習(小湊小学校 運動会に向けて)
12	小湊小学校 運動会にむけての準備 小湊敬老感謝の集いにむけての準備
13	小湊敬老者訪問または小湊敬老感謝の集いを開催
14	小湊小学校運動会 参加
15	地域と暮らし まとめ レポート評価について
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院
成績評価の方法	グループワークのまとめ・発表評価 テーマに沿ったレポート評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
暮らしを支える看護Ⅰ		益田 祐子		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(15)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	社会構造の変化を知り、在宅看護の目指すものを理解し、在宅看護の概念を学ぶ				
到達目標	対象者とその家族の特徴を理解し、地域包括ケアシステムの機能を学び、療養の場へ広がる看護活動を理解する。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	在宅看護の背景について理解を深める 在宅看護の目的と特徴について理解する
2	在宅看護の対象者の特徴について理解する
3	在宅看護における家族支援について 療養者を支える家族存在について理解する
4	暮らしを支える看護のイメージができる 環境を整える、在宅看護の役割を理解する 地域包括ケアシステムを知る
5	暮らしを支える制度面の理解ができる 暮らしを支える看護に求められていることの理解 対象を見る視点について理解する
6	ライフステージ毎の対応を理解する 暮らしの中のリスクについて理解する
7	在宅・地域での看護師の役割を学ぶ 多職種連携における看護師の役割を学ぶ
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の基盤 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
暮らしを支える看護Ⅱ		益田 祐子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(15)	教室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	在宅看護に関わる制度や法令、訪問看護の制度や提供方法				
到達目標	地域・在宅看護の対象を支える制度を理解する				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	1) 国・地域状況の理解ができる 2) 1) の状況より地域・在宅看護の意義が理解できる
2	介護保険制度の理解 (財源について、利用者状況について)
3	1) 訪問看護ステーションの制度について理解する 2) 医療保険制度について理解する
4	1) 訪問看護ステーションを取り巻く制度面について 2) 対象の理解
5	1) 権利保護に関連する制度の理解 2) 事例から対象者の理解をグループで検討する
6	1) 事例から在宅を考える考え方について 2) 在宅マネジメントを考える、グループ発表
7	在宅制度面の理解 まとめ学習
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材 参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の基盤 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅療養を支える看護Ⅰ		益田 祐子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(30)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	対象となる疾患の症状・状態 看護の要点 在宅看護介入				
到達目標	在宅看護の各疾患について理解し、在宅における事例展開を理解する。				
事前学習	レポート(脳卒中、パーキンソン病、ALS)				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	在宅看護介入時期別の特徴について考える
2	認知症療養者の事例展開 認知症について、独居療養者の現状を知る
3	認知症療養者の在宅での過ごし方について検討・対応を考えることができる
4	ALSについて疾患の理解・対応について コミュニケーションについて検討する
5	ALSの看護展開・対応について考える レポートより学びを深める
6	がん終末期・在宅看護展開 終末期の身体状況の理解を深める
7	がん終末期の訪問看護展開を考え発表する 統合失調症の訪問看護をDVDにて学ぶ
8	脳卒中の療養者の事例展開
9	パーキンソン病の事例展開 グループワーク
10	パーキンソン病の事例展開 発表
11	COPDの看護展開 グループワーク
12	COPDの看護展開 発表
13	統合失調症の看護展開 講義・DVD視聴
14	小児療養者の看護展開
15	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院
成績評価の方法	筆記試験 レポート
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅療養を支える看護Ⅱ		重 しほ子 益田 祐子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(30)	教室 実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	在宅看護の援助技術 日常生活の工夫 在宅看護における医療技術				
到達目標	在宅における日常生活援助に必要な援助技術を学ぶ 在宅で行われる医療処置の方法を学ぶ 療養者やその家族の指導や相談方法を学ぶ				
事前学習					

授業計画

No.	授業内容	
1	在宅看護におけるコミュニケーション技術	重
2	在宅看護におけるアセスメント技術	
3	訪問時の基本的態度(マナー) サービス提供者としての心構え グループワーク	
4	訪問時の基本的態度(マナー) サービス提供者としての心構え 発表	
5・6・7	排便技術(摘便) 在宅看護におけるベッド上洗髪 拘縮がある療養者の爪切り グループで実施方法を考え・実習室にて実施	益 田
8・9・10 11・12・13	在宅医療技術 ・アセスメントと看護の実際 在宅酸素療法 人工呼吸器療法 膀胱留置カテーテル法 口腔ケア 経管栄養法 胃瘻・腸瘻栄養法 排泄ケア ストーマ管理法 褥瘡管理 移動・移乗動作(ポジショニング、リフト移動) 足病変 在宅中心静脈栄養(ポート) 服薬管理(服薬指導) 外来がん治療 疼痛コントロール管理	
14	在宅実践の技術:ターミナル、看取り、グリーフケア	
15	終講試験	
履修上の要件		
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の実践 医学書院	
成績評価の方法	筆記試験	
備考		

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅療養を支える看護Ⅲ		岩井 里砂		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(15)	教室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	対象に応じた看護過程				
到達目標	対象とその家族が望んでいる思いや希望に寄り添った看護を探究し続け、価値観を尊重した看護過程の展開を学ぶ。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	在宅看護過程におけるポイント 記録用紙説明・評価について・事例提示および展開
2・3・4	グループに分かれて事例展開(記録用紙 No.1～No.3 まで) 対象・家族理解についてグループで協同学習し、問題抽出
5・6	アセスメント・計画立案(個人) 自身が着目した看護問題についてアセスメント・計画立案 ・看護問題に対する目標設定(療養者、家族のニーズを捉えた) ・目標達成に向けての具体策を立案
7・8	事例による看護過程発表①(グループ) 評価 振り返り グループごとに全体像発表
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院
成績評価の方法	看護過程の提出 評価表に基づき評価 グループワークによる評価、グループ発表評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学概論		池田 恵子		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(30)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある講師による講義。				
学修内容	成人とは、ライフサイクル、発達課題、成人と生活、成人と健康、成人へのアプローチ、保健・医療・福祉システムの連携、多職種連携、健康レベルに対応した看護アプローチ、家族支援				
到達目標	成人各期の特徴、成人の生活や健康に関する基礎的知識を理解する。 成人の多様な健康レベルに対応したアプローチ方法を理解する				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1・2	大人とは？各発達段階の特徴と発達課題（青年・壮年・中年・向老期）
3	成人を取り巻く環境 人口動態・人口情態
4	成人を取り巻く環境と生活から見た健康 職業性疾患・作業関連疾患・ストレスと健康
5	成人を取り巻く環境 生活習慣に関連した疾患とヘルスプロモーション
6・7	成人への看護アプローチの基本 大人の健康行動の捉え方、行動変容を促進する看護アプローチ
8・9	成人期各健康段階における看護 1) 健康の急激な破綻（急性期の特徴・課題学習・GW） 2) 急性期の事例検討（GW）
10・11	1) リハビリテーション期にある患者（回復期の特徴・課題学習・GW） 2) 回復期の事例検討（GW）
12・13	1) 慢性病とともに生きる人を支える（慢性期の特徴・課題学習・GW） 2) 回復期の事例検討（GW）
14	人生の最後のときを支える看護・事例検討（GW）
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働省統計協会
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学 I 呼吸器疾患患者の看護		長井 安代		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	呼吸器疾患患者の看護について学ぶ。				
到達目標	①呼吸器疾患患者に特徴的な症状に対する看護を理解できる。 ②呼吸器疾患患者の検査・治療処置における看護を理解する。 ③呼吸器機能障害のある患者のアセスメントを理解することができる。				
事前学習	呼吸器の解剖生理を復習しておく。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	肺がん患者の看護 血痰・喀血 気管支鏡検査、生検
2	慢性閉塞性肺疾患患者の看護 咳嗽、喀痰、呼吸困難、動脈血ガス分析、呼吸機能検査、 酸素療法、Co2 ナルコーシス
3	肺炎患者の看護、 睡眠時無呼吸症候群患者の看護 気管切開、人工呼吸器装着患者の看護
4	肺結核患者の看護 気管支喘息
5	自然気胸患者の看護 胸痛 胸腔穿刺 胸腔ドレナージ 肺血栓塞栓症患者の看護 急性呼吸窮迫症候群患者の看護
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 呼吸器 医学書院 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	呼吸器疾患患者の看護と循環器疾患患者の看護を併せて筆記試験 筆記試験 70%、成人看護過程 30%
備考	呼吸器疾患患者の看護と循環器疾患患者の看護と成人看護過程を併せて 1 単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学 I 循環器疾患患者の看護		池田 恵子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	循環器疾患患者の看護について学ぶ				
到達目標	①循環機能について理解できる ②循環機能障害によって起こる症状がわかる ③循環機能障害のある患者のアセスメントがわかる ④循環機能障害のある患者の急性期・回復期・慢性期の看護がわかる ⑤主な検査・治療時の看護がわかる				
事前学習	心臓・血管の解剖生理、バイタルサインについて理解しておく				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	1. 血圧異常患者の看護：高血圧患者の看護と生活指導、薬物療法 2. 虚血性心疾患患者の看護 狭心症・心筋梗塞患者の急性期・回復期・慢性期の看護 心臓カテーテル検査・PCI治療を受ける患者の看護 心臓リハビリテーション
2	3. 心不全患者の看護 急性心不全・慢性心不全・左心不全・右心不全 急性期の看護、慢性期の看護とセルフケアの自立への援助
3	4. 不整脈患者の看護 危険な不整脈、ペースメーカー適応の不整脈 ペースメーカー植え込み術を受ける患者の看護
4	5. 動脈疾患・静脈疾患 6. 手術療法
5	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 循環器 医学書院
成績評価の方法	呼吸器疾患患者の看護と併せて筆記試験 筆記試験70%、成人看護過程30%
備考	呼吸器疾患患者の看護と成人看護過程を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学 I 看護過程		池田 恵子		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	成人期にある対象の成長発達段階・健康障害の時期にあわせた看護過程の展開を学ぶ				
到達目標	成人の患者の回復期および慢性期の看護目標・看護計画が立てられる。				
事前学習	循環器疾患				

授業計画

No.	授業内容	
【成人期にある循環器疾患を持つ患者の事例を使って看護過程の展開を行う】		
1	1. うつ血性心不全患者の情報の整理と全体像の理解 ①病態、治療、検査、看護についての事前学習 ②ヘンダーソンの看護過程にもとづいた情報の整理と成人期にある対象の発達段階と病態をふまえた全体像について講義 ③グループワークでの学習	PBL
2・3	2. 回復期のアセスメントと看護問題の優先順位の判断 ④グループワークでアセスメントのプレゼンテーション ⑤グループで看護問題の優先順位の検討 3. 回復期の看護計画立案 ⑥グループワーク後個人で看護計画を立案	PBL
4・5	4. うつ血性心不全患者の慢性期のアセスメントと看護計画 ⑦退院に向けた援助を事前学習しグループ内で検討、計画立案 ⑧退院指導の実施・振り返り	PBL 演習
履修上の要件		
テキスト、教材、参考書	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ノーヴェルヒロカワ 疾患別看護過程の展開 学研 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 循環器 医学書院 今日の治療薬 南江堂	
成績評価の方法	事前学習・看護過程・レポートの提出の点数化評価	
備考	呼吸器疾患患者の看護と循環器疾患患者の看護を併せて1単位 看護過程は30%	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅱ 消化器疾患患者の看護		池田 恵子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(16)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	消化器疾患患者の看護を学ぶ				
到達目標	① 消化器疾患の症状と看護が理解できる ② 消化器疾患の看護について理解できる。 ③ 消化器系の検査および治療における看護について理解できる ④ ストーマケアについて理解できる。				
事前学習	消化器の解剖生理を理解しておく 生化学、薬理学で検査データの意味や薬物の作用、副作用を復習しておく。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	消化器疾患患者の特徴 1. 症状に対する看護
2・3・4	2. 疾患を持つ患者の看護 食道、胃・十二指腸、小腸、大腸の疾患と看護 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患と看護
5	3. 検査を受ける患者の看護 胃カメラ、大腸鏡、ERCP、肝生検、PTCD 4. 治療、処置を受ける患者の看護 薬物療法、化学療法、食事療法
6	5. 人工肛門造設術を受ける患者の看護
7	6. ストーマケアの実際(演習)
8	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 消化器 医学書院
成績評価の方法	内分泌・代謝疾患患者の看護を併せて筆記試験
備考	内分泌・代謝疾患患者の看護を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅱ 内分泌・代謝疾患患者の看護		林 なおみ		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(14)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	内分泌と代謝疾患患者の看護を通して生涯コントロールが必要な患者を支援する方法について学ぶ。				
到達目標	内分泌と代謝疾患患者の看護と生涯コントロールが必要への援助方法が理解できる。				
事前学習	インスリン自己注射、自己血糖測定の援助、エンパワメントエデュケーション、セルフマネジメント教育				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	内分泌疾患の検査を受ける患者の看護 (ホルモン血中濃度測定、ホルモン負荷試験) 副腎疾患患者の看護(アルドステロン症、クッシング症候群)
2	甲状腺疾患患者の看護 (バセドウ病、甲状腺機能低下症、甲状腺切除術を受ける患者)
3	代謝疾患患者の看護と食事療法を受ける患者の看護 (脂質異常症、肥満、尿酸代謝異常)
4	糖尿病患者の看護 食事療法・薬物療法・運動療法に対する援助：グループワーク
5	糖尿病患者の看護 運動療法・薬物療法・運動療法に対する援助：グループワークの発表
6	インスリン自己注射・自己血糖測定(演習) グループワーク
7	糖尿病患者が自己管理できる支援を考える
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 内分泌・代謝 医学書院
成績評価の方法	消化器疾患患者の看護を併せて筆記試験
備考	消化器疾患患者の看護を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅲ クリティカルケア		池田 恵子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(20)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	クリティカルケア、救急看護、周手術期看護、創傷管理の技術				
到達目標	生命の危機状態における患者の状態が理解できる。 クリティカルケア看護に必要な看護技術が理解できる。				
事前学習	解剖生理学、フィジカルアセスメント				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	1. クリティカルケア看護とは・看護の場とチーム医療 クリティカルケアを必要とする患者の特徴 救急医療と看護・家族の特徴、危機介入
2	2. クリティカルな患者の病態理解と看護・生体侵襲と防御反応 呼吸機能障害、循環機能障害、脳・神経障害、DIC、ショック
3	3. クリティカルケア看護に必要な看護技術 救急看護、人工呼吸器管理、ショック、他
4	4. 周手術期看護(術前) 術前の看護、周手術期にある患者の事例展開
5	5. 手術室看護 手術体位と合併症
6	6. 周手術期看護(術後) 術後合併症・早期離床、
7	7. 周手術期看護(術後) 創傷の治癒過程、ドレナージ管理、創洗浄
8	8. 周手術期にある患者の術後の事例展開 術後のアセスメント・身体侵襲・生体反応
9	9. 術後のクリニカルパスを参考に術後の看護計画を立案
10	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院
成績評価の方法	終末期ケアを併せて筆記試験
備考	終末期ケアを併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅲ 終末期ケア				2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(10)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある講師による講義。				
学修内容	緩和ケアの定義を学び緩和ケアを必要とする患者・家族への看護を学ぶ。患者・家族の悲嘆を理解し、人生最後のときを支える看護師の役割や機能、看護師としての態度について考える。				
到達目標	緩和ケアを必要とする患者の看護、患者・家族の悲嘆を理解することができる。 人生の最後のときを支える看護師の役割と機能、看護師としての態度について考える。 死生観をもつことができる。				
事前学習	トータルペイン、エンドオブライフケア・アドバンスケア・プランニング				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	緩和ケアの歴史・定義、緩和ケアにおけるチームアプローチ、緩和ケアにおける倫理的課題(意思決定支援・アドバンスケア・プランニング)、死の受容過程
2	全人的苦痛と苦痛へのアプローチ、癌性疼痛の理解、薬物療法、評価方法、看護、日常生活援助方法
3	食べることへの支援、全身倦怠感のケア、不眠の援助 存在を支える看護、スピリチュアルケア
4	家族のケア
5	人生の最後のときを支える看護師の役割と機能 1) 看護師の存在自体が患者に緩和的にはたらく 2) 意思決定支援と看護師の役割、
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院
成績評価の方法	クリティカルケアを併せて筆記試験
備考	クリティカルケアを併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅳ 運動器疾患患者の看護				2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(10)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	運動器疾患患者の看護について学ぶ。				
到達目標	運動器疾患患者の看護の特徴について理解できる。 神経麻痺・循環麻痺の観察と予防ができる。 筋力低下の予防と評価ができる。				
事前学習	解剖生理学（筋肉・運動器）の復習をしておく。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	運動器疾患患者の看護（合併症：神経障害、循環障害、筋力低下） 事例を通して：大腿骨頸部骨折で牽引をしている患者
2	検査・ギブス固定を受ける患者の看護 治療後の姿勢の制限について（人工股関節、人工膝関節など）
3	脊髄損傷・切断患者の看護
4	包帯法演習（伸縮包帯 弾性包帯 三角筋）
5	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 運動器 医学書院
成績評価の方法	腎・泌尿器疾患患者の看護と脳神経疾患患者の看護を併せて筆記試験
備考	腎・泌尿器疾患患者の看護と脳神経疾患患者の看護を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学IV 脳神経疾患患者の看護		中島 久代		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(10)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	脳神経疾患患者の看護について学ぶ。				
到達目標	脳神経疾患患者に特徴的な症状の看護について理解できる。 脳神経疾患患者の検査・治療処置における看護を理解できる。 脳神経機能障害のある患者のアセスメントが理解できる。				
事前学習	脳神経の解剖生理の復習をしておく。				

授業計画

No.	授業内容
1	事例①くも膜下出血患者の看護 症状に対する看護 頭部 CT MRI MRA 脳血管造影 開頭手術 クリッピング術 脳血管内治療 合併症予防看護 脳室ドレナージ V-P シヤント 高次脳機能障害
2	事例②脳内出血患者の看護 頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア クッシング現象 意識レベルの観察 (JCS・GCS) 瞳孔の観察
3	事例③脳梗塞患者の看護 運動麻痺 バレー徴候 MMT 感覚障害 半側空間無視 血栓溶解療法の看護 回復期の看護 再発予防(血圧管理 生活習慣の見直し) 社会復帰に向けてのリハビリテーション
4	脳腫瘍 慢性頭蓋内圧亢進症状 腫瘍摘出術 放射線療法 化学療法 下垂体腫瘍 過剰内分泌症状 圧迫症状(視野障害 両耳側半盲) 術前・術後の看護
5	頭部外傷 神経難病 筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発性硬化症
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 脳神経 医学書院
成績評価の方法	腎・泌尿器疾患患者の看護と運動器疾患患者の看護を併せて筆記試験
備考	腎・泌尿器疾患患者の看護と運動器疾患患者の看護を併せて1単位

受業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅳ 腎・泌尿器疾患患者の看護		中窪 美穂		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(10)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある講師による講義。				
学修内容	腎泌尿器疾患患者の看護を学び、自己管理できる援助について学習する				
到達目標	腎泌尿器疾患患者の看護を理解することができる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	検査を受ける患者の看護(尿検査、膀胱鏡検査、逆行性腎盂造影、腎生検)
2	症状に対する看護(浮腫・残尿・尿失禁)
3	慢性腎不全・慢性腎臓病患者の看護
4	糖尿病性腎症から透析導入となった患者の看護 セルフケア行動ができるための援助方法を考える
5	慢性腎臓病患者の関りについて 前立腺がん・膀胱がん(膀胱摘出術および尿路変更術を受ける)患者に対する看護
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 腎・泌尿器 医学書院
成績評価の方法	運動器疾患患者の看護と脳神経疾患患者の看護を併せて筆記試験
備考	運動器疾患患者の看護と脳神経疾患患者の看護を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学V 女性生殖器・感覚器 疾患患者の看護		有田 敏子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(14)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	女性生殖器疾患を事前学習し、化学療法や手術療法における看護について学ぶ 感覚器疾患を事前学習し、手術療法における看護やスキンケアについて学ぶ				
到達目標	女性生殖器疾患をもつ患者の特徴・看護が理解できる 感覚器疾患患者の看護が理解できる				
事前学習	1) 女性生殖器の解剖生理を復習する 2) 感覚器の解剖生理を復習する 下記疾患の病態、治療、看護について事前学習する(1疾患A ₄ 1枚)				

授業計画

No.	授業内容	
1	<女性生殖器>女性生殖器疾患を持つ患者の心理・看護者の役割 治療・処置・検査を受ける患者の看護 (化学療法 放射線療法 ホルモン療法)	有田
2	治療を受ける患者の看護(子宮頸癌 子宮体癌 内膜症)	有田
3	治療を受ける患者の看護(卵巣癌 更年期障害 不妊治療)	有田
4	治療を受ける患者の看護(乳がん)	有田
5	<感覚器>眼疾患患者の看護(白内障 緑内障 網膜剥離)	
6	耳鼻咽喉疾患患者の看護(喉頭癌 副鼻腔炎 メニエール病)	
7	歯・口腔疾患患者の看護(口腔ケア 上顎癌 口蓋裂 下顎前突症) 皮膚科疾患患者の看護(スキンケア 尋常性乾癬 帯状疱疹 熱傷)	
履修上の要件		
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 歯・口腔 医学書院	
成績評価の方法	血液、アレルギー、膠原病、感染疾患患者の看護を併せて筆記試験	
備考	血液、アレルギー、膠原病、感染疾患患者の看護を併せて1単位	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人看護学Ⅴ 血液・アレルギー 膠原病・感染症疾患患者の看護		林 なおみ		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(16)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	血液・膠原病・アレルギー・感染症の患者の看護についてグループワークする。				
到達目標	血液、膠原病、アレルギー、感染症の患者の特徴と看護援助を理解できる。				
事前学習	SLE、関節リウマチ、アナフィラキシーショック、HIV・急性骨髄性白血病の看護援助を調べる。造血幹細胞移植・輸血時の援助				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	膠原病疾患患者の看護 (SLE の主な症状、薬物療法に対する看護)
2	膠原病疾患患者の看護 (関節リウマチの主な症状、薬物療法に対する看護) 社会資源を活用しながらセルフケア向上のための援助方法
3	アレルギー疾患患者の看護 (アナフィラキシーショックと主な症状に対する看護)
4	感染症疾患患者の看護 (HIV、AIDS、敗血症と主な症状に対する看護) H I V 感染症・エイズ患者の看護における看護師の役割
5	血液疾患患者の看護 主要症状を有する患者の看護 (貧血・出血傾向・易感染状態にある患者の看護)
6	急性骨髄性白血病患者の看護・化学療法に対する看護
7	造血幹細胞移植を受ける患者の看護 輸血療法時の看護
8	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院
成績評価の方法	女性生殖器・感覚器疾患患者の看護と併せて筆記試験
備考	女性生殖器・感覚器疾患患者の看護と併せて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学概論		中島 久代		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	高齢社会の統計的輪郭・高齢者の健康状態 介護保険 地域包括ケア 高齢社会における権利擁護				
到達目標	老年期にある対象の特性を理解し看護の役割、機能について学習する。 わが国の高齢化問題を理解し、高齢者の家族、地域、医療福祉機関に及ぼす影響や高齢者を取り巻く環境の変革について考察する。				

授業計画

No.	授業内容
1	高齢者を知る 高齢者の生活史を理解する(ライフインタビューまとめ)
2	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解する、発達課題、フレイル
3	高齢者模擬体験(高齢者体験セット) 【実習室】
4	高齢者模擬体験の振り返り・発表(GW) 【教室】
5	地域支援事業 地域包括ケアシステム
6	身近な地域での高齢者施策
7	高齢者社会における保健医療福祉制度の変遷
8	介護保険の概要と介護予防
9	高齢社会における権利擁護 高齢者虐待
10	高齢社会における権利擁護 身体拘束
11	高齢社会における権利擁護成年後見制度・日常生活支援事業
12	「独居・高齢の患者の在宅看護」高齢者の自宅の環境を整える(GW)
13	エンドオブライフケア
14	老年看護の定義・特徴・役割・ICF・レスパイトケア
15	振り返り 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 新系統看護学全書 老年看護学概論・老年保健 メヂカルフレンド社
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学 I 加齢変化・症状・疾患		長井 安代		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (15)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	高齢者の加齢に伴う身体機能・認知機能の変化 高齢者に特有な症候・疾患・検査・治療と看護				
到達目標	高齢者の健康障害の特徴を理解し、健康レベルに応じた看護について理解する。				
事前学習	授業の該当内容について教科書				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	高齢者のヘルスアセスメント 身体に加齢変化とアセスメント 皮膚、視聴覚、循環系、呼吸器系
2	高齢者のヘルスアセスメント 身体に加齢変化とアセスメント 消化器系、ホルモンの分泌、泌尿生殖器、運動系
3	症候のアセスメントと看護 発熱、疼痛、脱水、嘔吐
4	症候のアセスメントと看護 浮腫、倦怠感
5	検査・治療を必要とする高齢者のアセスメント 検査を受ける高齢者の看護、薬物療法を受ける高齢者のアセスメント 手術を受ける高齢者の看護
6	身体疾患のある高齢者の看護 パーキンソン病、パーキンソン症候群
7	身体疾患のある高齢者の看護 インフルエンザ、肺炎、骨粗鬆症、骨折
8	終講テスト

履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学Ⅱ 日常生活の援助・看護過程		脇田 真由美 中島 久代		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	2(45)	教室 実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	高齢者の生活機能を整える看護摂食・嚥下障害の看護、褥瘡の看護				
到達目標	<p>高齢者の生活機能を整える看護について理解する。 (日常生活を支える基本的活動、食事、排泄、清潔、生活リズム、コミュニケーション)</p> <p>高齢者の生活機能を整える看護技術を実施できる。 高齢者が生活を営むために不可欠な生活行動の力が最大限に発揮できる看護を提供できるような看護過程の展開ができる。</p>				
事前学習	摂食・嚥下のメカニズム				

授業計画

No.	授 業 内 容	
1	日常生活を支える基本的活動、転倒のアセスメントと看護 廃用症候群のアセスメントと看護	中島
2	食事・食生活 摂食嚥下機能の変化、食生活のアセスメント・食生活の支援	脇田
3	排泄 高齢者の排泄ケアの基本、 排尿障害のアセスメントとケア 排便障害のアセスメントとケア	中島
4	清潔 清潔の意義、高齢者に生じやすい健康問題、清潔のアセスメント、清潔の援助	
5	生活リズム 高齢者と生活リズム、高齢者に特徴的な変調 生活リズムのアセスメント、生活リズムを整える看護	
6	コミュニケーション かかわり方の原則、コミュニケーション能力のアセスメント、 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーション	
7	褥瘡・スキン-ケア	
8	認知機能障害のある高齢者の看護 うつ、せん妄、認知症	
9	演習 起き上がり動作、座位保持、片麻痺のある高齢者へのベッドから車椅子、車椅子からベッドへの移乗動作、	
10・11	演習 摂食・嚥下訓練、嚥下障害がある高齢者への食事介助、口腔ケア、義歯洗浄	脇田
12・13	演習 排泄障害のある高齢者への援助、排泄ケア おむつ交換 清潔ケア 入浴 麻痺のある高齢者の更衣 爪切り	中島
14	演習 褥瘡予防、褥瘡ケア	
15	看護過程 事例紹介(脳血管障害患者、パーキンソン病患者、認知症等) 情報の分析	脇田
16	看護過程 14項目の情報の分析	脇田
17	看護過程 全体像の把握	
18	看護過程 アセスメント・看護問題抽出	
19	看護過程 計画・立案 目標・解決策	
20・21	演習	
22	看護過程 評価 まとめ	
23	終講試験	
履修上の要件		
テキスト、 教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 新体系看護学全書 老年看護学概論・老年保健 メヂカルフレンド社	
成績評価の方法	筆記試験	
備考		

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学概論		重 しほ子		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2(30)	教室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	子どもの特徴 子どもを取り巻く環境 倫理				
到達目標	小児看護の対象である子どもを理解する。小児看護の役割を理解する。小児期の成長・発達を理解し小児各期の特徴を理解する。小児を取り巻く環境、現代の家族や社会の特徴を知り家族の機能を促進させる看護を理解する。発達段階に応じて小児が健康な生活を送るための看護を理解する。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	小児看護の目ざすところ 小児看護の対象 小児看護の目標と役割
2	小児と家族の諸統計 わが国の人口構造 出生と家族 子どもの死亡
3	小児看護の変遷 小児医療・看護の変遷
4	小児看護における倫理 子どもの権利 医療現場で起こりやすい問題点と看護
5	小児看護の課題 疾病構造の変化と小児看護 社会の変化と小児看護 小児看護の専門分化
6	障害のある子どもと家族の看護 子どもの虐待と看護
7	子どもの成長・発達 小児看護における発達論 成長・発達の進み方
8・9・10・ 11	新生児・乳児・幼児・学童・思春期・青年期 形態的・身体生理の特徴 各機能の発達 養育および看護 グループワーク プレゼンテーションの準備
12	グループごとの発表
13	家族の特徴とアセスメント 子どもと家族を取り巻く社会 児童福祉 母子保健 医療費の支援
14	予防接種 学校保健 食育 特別支援教育 臓器移植
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学 I		重 しほ子・大山 周子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義。 本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	小児に特徴的な健康障害と疾患について理解し、病気・障がいを持つ子どもと家族の看護について学ぶ。				
到達目標	小児の健康障害と疾病を理解する。 疾病・障がいを持つ子どもと家族の看護、状況に特徴づけられる看護、疾病の経過と看護を理解する。 小児に特徴的な健康障害と疾病の看護を理解する。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容	
1	染色体異常 ハイリスク新生児 代謝性疾患 内分泌疾患	医 師
2	免疫・アレルギー疾患・リウマチ性疾患 感染症	
3	呼吸器疾患 循環器疾患 消化器疾患	
4	血液・造血器疾患 悪性新生物 腎・泌尿器疾患	
5	神経疾患 運動器疾患 皮膚疾患 眼・耳鼻咽喉疾患 事故・外傷	
6	病気・障がいを持つ子どもと家族の看護 病気・障がい子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護 健康問題をもつ子どもの家族の看護	
7	子どもの状況 (環境) に特徴づけられる看護 入院中 外来 在宅療養中 災害時 子どもにおける疾病の経過と看護	
8	発達障害の特性と対応	大山
9	染色体異常と看護 代謝性疾患、内分泌疾患と看護	
10	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護 感染症と看護	
11	呼吸器疾患と看護 循環器疾患と看護 消化器疾患と看護	
12	血液・造血器疾患と看護 悪性新生物と看護	
13	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 神経疾患と看護	
14	運動器疾患と看護 事故・外傷と看護	
15	まとめ・終講試験	
履修上の要件		
テキスト 教材 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院	
成績評価の方法	筆記試験	
備考		

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学Ⅱ		重 しほ子 長井 安代		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	子どもと家族への看護 (検査・処置に伴う技術と看護 プレパレーションと看護) 疾患と看護				
到達目標	子どものアセスメントに必要な知識と技術を理解できる。 検査・処置を受ける子どもと家族の看護、援助の方法がわかる。 健康障害のある子どもに出現しやすい症状と看護を理解できる。 小児看護の特徴を捉えた看護過程が理解できる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容	
1	症状を示す子どもの看護 不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・チアノーゼ ショック・意識障害	長 井
2	症状を示す子どもの看護 けいれん・発熱 嘔吐・下痢・便秘・脱水	
3	症状を示す子どもの看護 出血・貧血 発疹・黄疸 浮腫	
4	検査・処置を受ける子どもと家族の看護 総論(子どもにとっての検査・処置体験と看護の実際) 薬物動態と薬用量の決定 プレパレーション	重
5	子どものアセスメント アセスメントに必要な技術 身体的アセスメント	
6	技術と看護 (注射 与薬 小児の輸液療法)	
7	技術と看護 (採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺・抑制・罨法・浣腸)	
8	技術と看護 (酸素療法・吸入・吸引・経管栄養・救命処置)	
9	技術と看護の演習 (輸液療法中のシーネ交換・吸入療法の実際)	
10・11 12・13・14	看護過程	重
15	まとめ 終講試験	
履修上の要件		
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院	
成績評価の方法	筆記試験 看護過程	
備考		

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護学概論		一瀬 いつ子		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(30)	教室	後期		
実務経験	本科目は、助産師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	母性看護の概念と意義、性と生殖、母性のライフサイクル、リプロダクティブヘルス/ライツ、統計、諸制度				
到達目標	母性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病の予防を理解する				
事前学習	「母性とは」について、経験を基にレポートする。600文字以上				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	母性とは 母子関係と家族発達
2	セクシャリティ(人間の性)、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーション
3	母性看護における倫理
4	母性看護の歴史的変遷と現状—母子統計からみた現状—
5	母性看護の対象を取り巻く環境—母子保健施策からみた現状—
6	母性看護の対象を取り巻く環境 発表・まとめ
7	生命の誕生 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化
8	母性看護における看護過程
9	女性のライフサイクルと家族 思春期・成熟期・更年期・老年期
10	ライフサイクル各期の健康問題と看護、グループワーク・まとめ
11	リプロダクティブヘルスケア—家族計画・性感染症・HIV・人工中絶
12	リプロダクティブヘルスケア—喫煙女性・性暴力・児童虐待
13	リプロダクティブヘルスケア
14	まとめ・振り返り
15	まとめ・終講テスト
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
成績評価の方法	筆記試験 レポート
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護学 I		加藤 美紀江		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前期		
実務経験	本科目は、助産師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期の生理と看護、異常時の看護				
到達目標	妊婦、産婦、褥婦、新生児の生理的変化を理解し、看護及び保健指導を行う能力を養う。				
事前学習	授業内容にそってテキストを読む。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1・2	妊娠期の看護
3	妊婦体験 (妊婦ジャケット着用・妊婦検診・骨盤底筋運動・腰痛予防運動)
4	分娩期の看護 (第1期の看護)
5	分娩期の看護 (第2期の看護)
6	分娩期の看護 (第3期の看護)
7	分娩期の看護 (第4期の看護)
8・9・10	産褥期の看護
11	産褥期の看護 (保健指導・育児指導・産褥体操)
12	新生児の生理、新生児の機能
13	新生児の看護 (新生児のアセスメント・新生児の診断、新生児の健康状態のアセスメント)
14	地域包括ケアシステム
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 病気がみえる・産科 vol10 メディックメディア
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護学Ⅱ		一瀬 いつ子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2(30)	教室 実習室	後期		
実務経験	本科目は、助産師・医師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的変化と看護、保健指導 レオポルド触診法、NST、母乳育児支援、ウエルネス志向				
到達目標	妊娠・分娩・産褥期の生理的変化を理解し、看護及び保健指導を理解する。 新生児が胎外生活に適応し、成長発達するために必要な看護を理解する。褥婦・新生児のウエルネス看護過程の展開ができる。妊産褥婦新生児の正常からの逸脱状態のアセスメント、ケアについて理解できる。				
事前学習	母性看護学Ⅰの復習				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	妊婦、褥婦、新生児の看護に必要な看護技術(妊婦腹囲・子宮底の測定、レオポルド触診、胎児モニタリング装着、乳房ケア、新生児の抱き方、寝かせ方、新生児のフィジカルアセスメント)
2・3	沐浴の実施
4	母性看護における看護過程の特徴と妊娠期の看護過程
5	妊産褥婦及び新生児のアセスメントと看護
6・7	妊娠の異常(合併症妊娠、感染症、妊娠疾患、妊娠悪阻、HDP、血液型不適合、多胎妊娠、流産、早産、過期妊娠、切迫早産、異所性妊娠) 分娩の異常 (産科処置、分娩時出血、胎盤異常、胎位、胎向、回旋の異常)
8	産褥期の異常 新生児の特徴、携帯、機能、 新生児の異常(高ビリルビン血症、ビタミンK欠乏性出血、分娩時外傷)
9・10	妊娠期の異常と看護
11・12	分娩期の異常と看護
13・14	産褥期の異常と看護 新生児の異常と看護
15	まとめ 終講テスト
履修上の要件	
テキスト、教材 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論、母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版 病気がみえる・産科 vol10 メディックメディア
成績評価の方法	筆記試験 レポート
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学概論		濱田 秀子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(15)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	対人関係、精神保健医療福祉の法制度・歴史				
到達目標	精神看護学の位置づけと精神看護の目的、対象、看護の役割について理解する。 また、対象に応じた心の健康の保持・増進への看護の重要性と方法について学ぶ。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	精神看護学の基本的な考え方 個別性と普遍性 人と人との関係性の理解
2	精神障害の捉え方 精神を病むということは 疾患と病について ICFモデルを用いた支援方法
3	精神看護の対象・機能・役割 精神看護の対象 ナラティブケアの重要性 精神に障害を抱える対象の強み リカバリースとレングス、レジリエンス、イニシアティブ エンパワーメントを意識した看護 権利擁護とソーシャルインクルージョン
4・5	精神医療・保健・福祉の変遷 精神看護の役割 精神医療・看護の歴史・人権・倫理
6	精神保健福祉法、精神保健指定医の役割
7	「精神を病む対象に行う看護」グループワーク
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 看護学生のための心理学 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅰ（精神保健）		濱田 秀子		2年次	
授業形態	単位（時間）	教室等	学期	曜日	時限
講義	1（16）	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	ストレスコーピング、コミュニケーション、メンタルヘルス、地域生活支援				
到達目標	精神保健の意義や目的・精神の発達について理解し、ライフステージにおける発達課題をと各期の精神保健問題及びその対応、多職種連携、協働の必要性について学ぶ。				

授業計画

No.	授 業 内 容	
1	精神の健康の概念 精神障害の一次予防、二次予防、三次予防 精神保健における危機 危機介入	
2	発達課題を達成していく中でのこころへの影響 自殺念慮・自殺企図がある対象への理解	GW
3	心の機能と発達	
4	災害時における精神保健医療活動	
5	リエゾン精神看護 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 災害時のメンタルヘルス	
6	社会資源の活用とケアマネジメント	
7	障害者に対する生活支援制度 精神障害者が地域で社会生活を送るうえで必要な支援	
8	まとめ 終講試験	
履修上の要件		
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院	
成績評価の方法	精神看護学Ⅰ（疾患障害、治療）と合わせて筆記試験	
備考	精神看護学Ⅰ（疾患障害、治療）を合わせて1単位	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅰ (疾患障害・治療)		難波 理志		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(14)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、医師として実務経験のある教員による講義				
学修内容	精神疾患／精神疾患の分類 症状 治療				
到達目標	精神疾患、症状の特徴および治療法を理解する				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	精神障害の理解 精神障害の医学モデル
2・3	精神疾患の分類 ① 外因性精神病・心因性精神病・内因性精神病 ②国際疾病分類 気分障害、不安障害 神経発達障害 知的能力障害の症状・治療・検査 生理的、行動症候群
4・5	主な精神疾患 ①アルツハイマー病／脳血管性認知症／ピック病 ②内分泌性精神症候群 ③産科と精神病(マタニティブルー) ④アルコール依存／コルサコフ症候群／覚醒剤中毒⑤てんかん⑥統合失調症 歴史／プロイラー、シュナイダー・クロウの主要症状／病型と症状／経過 と予後／治療 ⑦躁うつ病 ⑧神経症／心身症と神経症の違い／心因反応／ストレス関連障害 ⑨睡眠障害
6・7	精神症状と状態像のとらえ方 ①アンビバレンツ②妄想／思考の流れ方の異常／自我意識障害③昏迷／せん 妄／健忘 主な精神科治療 ②薬物療法 抗精神病薬／デボ剤／錐体外路副作用／抗不安薬／プラセボ効果／電気シ ョック療法 ③精神療法 精神行動分析療法／力動的療法／森田療法／内観療法 ④行動療法・活動療法 認知療法／SST／作業療法
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門基礎Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院
成績評価の方法	精神看護学Ⅰ(精神保健)を併せて筆記試験
備考	精神看護学Ⅰ(精神保健)を併せて1単位

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅱ		濱田 秀子		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(15)	教室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	対人関係/観察の視点/看護理論を活用した対象理解				
到達目標	「精神看護に共通する看護」として対人関係のもち方、観察の視点について学び、対象を理解する力を身につけることができる。				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	精神看護学の視点でのケア
2・3	ケアの原則と方法
4	関係性のアセスメント 自己・他者理解 病的体験の理解 プロセスレコードの活用
5	ペプロウ(治療的対人関係)・トラベルビー(人間対人間看護) 患者看護師関係の発展過程
6	患者-看護師関係における感情体験 対処の難しい場面 病的体験の理解 DVD
7	病的体験の理解
8	終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 看護実践のための根拠が分かる精神看護技術 メヂカルフレンド社
成績評価の方法	筆記試験
備考	

平江授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学Ⅲ		平江 将樹 有村 祐志 濱田 秀子		3年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1 (30)	教室	前期		
実務経験	本科目は、看護師・精神保健福祉士として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	急性期・回復期・慢性期の看護				
到達目標	精神に障害のある対象の症状の現われ方、言動の特殊性について学び、看護者の対象に対する「関わり方」「看護」を理解することができる。				

授業計画

No.	授 業 内 容	
1	入院治療の目的と意味 患者の権利 アドボカシー	平江
2	精神の健康とマネージメント	
3	不安症状がある患者への看護 服薬時の看護	
4・5	統合失調症・躁病・うつ病患者の看護 DVD	
6	検査・治療における看護	
7	回復を助ける支援 地域におけるケアと支援	
8・9	精神に障害を有する患者、家族への支援 (精神保健福祉士)	
10	ヘンダーソンの枠組みをベースにした看護過程 精神看護における観察・アセスメントの視点、統合失調症、精神疾患患者の特性、事例紹介	濱田
11・12・13	協同学習 (グループワーク)	
14	協同学習 (関連図の作成) (グループワーク)	
15	終講試験・まとめ	
履修上の要件		
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 看護実践のための根拠が分かる精神看護技術 メヂカルフレンド社 ヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 医歯薬出版株式会社	
成績評価の方法	筆記試験、看護過程	
備考		

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合演習 I		長井 安代 学内教員		2年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
演習	1 (30)	教室 看護実習室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	事例の対象に対し、複数の看護ケアを優先順位や各年齢を考慮し、患者の状態、状況にあった援助計画の立案、演習を実施する。				
到達目標	これまでの学習の中で修得した、各看護学で学んだ知識、技術を統合し、対象の状態に応じた看護を原則に基づいて正確に実践する能力を養う目的とする。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	事例の提示 小児、老年、成人の計3事例
2	GW: プレゼンテーション資料作成①事例の発達段階、病態生理、症状、検査、治療、看護 ②関連図 ③援助計画 事例1 小児: 3歳 男児 気管支喘息 吸入・シーネ固定の交換実施 事例2 老年: 85歳 女性 右被殻出血後遺症(左片麻痺・構音障害・嚥下機能障害) 誤嚥性肺炎・MRSA ガウンテクニック 口腔ケア 口腔内・鼻腔内吸引、気管内吸引を実施 事例3 成人I: 52歳 男性(女性) 心不全 酸素投与・膀胱留置カテーテル挿入・心電図モニター装着
3・4	各グループ、立案した計画書をもとに技術練習をしながら計画書を作成する。
5・6・7	立案した計画書をもとに、事例の技術について 演習発表と検討会 各グループから発表者1名 制限時間30分内
8・9	技術練習 他グループが作成した計画書をもとに実施する。
10・11・12	チェックリストに沿って、3事例を練習する。
13・14・15	技術試験 3事例のうち1事例を実施
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I、II 医学書院 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	技術試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合演習Ⅱ		池田 恵子 学内教員		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	前期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	ステップⅠ. 医療安全に基づいた援助：ヒューマンエラーと医療過誤 ステップⅡ. 複数患者受け持ち多重課題に対し援助計画の立案・実施				
到達目標	これまでの学習の中で修得した看護技術を統合し、各看護学で学んだ内容を臨床で実際に活用していくことができるよう臨床実践能力の強化。 複数受け持ち、多重課題、割り込み状況への対処を学ぶ				
事前学習	医療安全・周手術期看護・採血・腰椎圧迫骨折患者の看護、運動麻痺の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	【オリエンテーション】統合演習Ⅱの目的と授業の進め方について ステップⅠ：医療安全、ヒューマンエラー、医療過誤
2・3	ミニストーリー（ヒヤリ・ハット事例）についてグループワーク 医療事故防止啓発ポスター作成・発表・ディスカッション
4	講義：診療の補助に関わる事故：与薬・注射の事故 輸液ポンプ・輸注ポンプによる事故
5・6	転倒事故についてのグループワーク・ロールプレイ
7	講義・演習：医療者間のコミュニケーション（チームの鎖・SBAR）
8・9	ステップⅡ：複数受け持ちでの援助計画立案 病態や優先順位をふまえた臨床判断
10・11 12・13	複数受け持ちによる援助の実際（演習）×4回 ※14名の患者の援助を9人の看護師役とリーダー役が行う そのほかの学生は別室で映像を観察、演習終了後全体でリフレクション
14	事例の振り返り・レポート提出
15	まとめ 終講試験
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研 医療安全ワークブック 医学書院
成績評価の方法	筆記試験
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
リフレクション I		林 なおみ 学内教員		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	領域別実習 I・II の経験のリフレクションと発表				
到達目標	1 リフレクションの意義が理解できる。 2 リフレクション学習を行うときのリフレクター、ファシリテーターの役割ができる。 3 リフレクションシートを活用して客観的に自己を振り返ることができる。 4 リフレクションにより新たな自己への気づきができる。 5 リフレクションで得られたことをグループまたはクラス内で共有できる。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	講義「リフレクションとは、看護師にとっての意義」
2・3	領域別実習 I について GW：リフレクション演習①「看護実践経験を語る」 リフレクション演習②「語りからの気づきを記述する」
4	講義「リフレクションにおける分析・統合」
5・6	リフレクション演習③「実践行為の分析と統合」
7・8	全体発表・質疑応答・まとめ
9・10・11	領域別実習 II について GW：リフレクション演習①「看護実践経験を語る」 リフレクション演習②「語りからの気づきを記述する」
12・13	GW：リフレクション演習③「実践行為の分析と統合」
14・15	全体発表・質疑応答・まとめ
履修上の要件	領域別実習 I・II を履修していること
テキスト、教材、参考書	
成績評価の方法	ルーブリック評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
リフレクションⅡ		林 なおみ 学内教員		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室・実習室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	領域別実習Ⅲ～Ⅸ・統合実習のリフレクションを行う。				
到達目標	1 領域別実習・統合実習のリフレクションができる 2 グループ・クラス内で共有できる。 3 臨床判断力の課題を明確にできる。 4 自己の経験の価値づけと自己の課題の明確化ができる。 5 看護と介護の役割に対する理解を深め、他職種の価値観を理解できる。 6 看護と介護職との連携について考える。				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1～5	領域別実習Ⅲ～Ⅴについて リフレクション演習①「看護実践経験を語る」 リフレクション演習②「語りからの気づきを記述する」 リフレクション演習③「実践行為の分析と統合」 リフレクション演習④「リフレクションを促進するフィードバック」 全体発表・質疑応答
6～10	領域別実習Ⅵ～Ⅸ・統合実習について リフレクション演習①「看護実践経験を語る」 リフレクション演習②「語りからの気づきを記述する」 リフレクション演習③「実践行為の分析と統合」 リフレクション演習④「リフレクションを促進するフィードバック」 全体発表・質疑応答
11～15	領域別実習まとめ こども介護福祉学科の3年生と事例検討を行う。 各領域での学びを個人ワーク・グループワークでまとめる 全体発表・質疑応答
履修上の要件	
テキスト、教材、 参考書	
成績評価の方法	ルーブリック評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
看護管理		寺師 敬子 中島 久代		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1(30)	教室	前期・後期		
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	目標管理、ケアのマネジメント、情報管理、日本の医療制度、医療安全 グローバルヘルス、国際保健の指標、国際協力、プライマリーヘルスケア 災害医療、災害看護、被災者特性に応じた看護、心のケア、災害訓練				
到達目標	システムの中で、組織の中で、自分の仕事の機能を考え、全体とその中の 個として問題解決ができ、看護の質をあげていくことができる。 国際的視野を持つ(世界の健康の不平等、国境を超えて健康を守る) 災害各期の看護活動を理解できる。				
事前学習	テキストを読んでおく				

授業計画

No.	授 業 内 容		
1	看護の提供のしくみ 組織の成り立ち 看護をめぐる制度と政策	寺 師	
2・3	業務遂行(ケア)のマネジメント、目標管理 情報共有の仕組み		
4・5	日本の医療制度と病院経営、医療におけるサービスの構造		
6	グローバル化と看護、国際保健		
7	グローバルヘルス、国際保健の指標		
8	ジェンダーギャップ、国際協力		
9	国際労働と看護師不足(外国人看護師問題)		
10	1. 災害医療の基礎知識: 災害の種類、災害サイクル 2. 災害看護サイクルに応じた災害看護: 急性期・亜急性期		中 島
11	災害サイクルに応じた災害看護: 亜急性期～慢性期・復興期 避難所における被災者の生活		
12	3. 被災者特性に応じた災害看護: 要配慮者・避難行動要支援者とは 4. 災害とこころのケア		
13・14	大規模災害訓練		
15	終講試験		
履修上の要件			
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 統合分野 I 看護管理 医学書院		
成績評価の方法	筆記試験		
備考			

授業科目名		担当講師名	対象学年
看護を知る実習 I		学内教員 実習指導教員	1 年次
授業形態	単位 (時間)	実習場所	学期
実習	1 (32)	県立大島病院、大島郡医師会 病院、和光園、施設、訪問看護	前期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	看護が行われている場を知り、看護師の役割と看護の実際を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護が行われている場を知る。 2. 様々な場で行われている看護を知る。 3. 看護師の役割を知る。 4. 看護の実際について理解できる。 5. 患者と患者を取り巻く人々とコミュニケーションを図ることができる。 6. 看護師になるための今後の学習課題が明確にできる。 		
事前学習	看護学概論「看護の概念」、「看護の対象」基礎看護技術「コミュニケーション」		

授業計画

No.	授 業 内 容
1 日目 (8 時間)	実習オリエンテーション (学内)
2 日目・3 日目 (16 時間)	(臨地) <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設オリエンテーションを受ける 2. 看護師とともに行動 (シャドウイング) する。 3. 患者と患者を取り巻く人々とコミュニケーションを図る。 4. カンファレンスを行い、毎日の振り返りをする。
4 日目 (8 時間)	まとめ (学内) <ol style="list-style-type: none"> 1. シャドウイングでとらえた看護師の行動や学びを、実習グループでまとめる。 2. 各実習グループの学びを全体に発表し、全員で共有する。 3. 5名グループを編成し、グループワークを通して看護の実際を理解する。 4. グループワーク後、全体に発表する。 5. 実習終了後、今後の学習課題をレポート提出する。
履修上の要件	看護学概論の看護の概念、看護の対象 共通基本技術のコミュニケーション
テキスト、教材、 参考書	基礎看護学実習要項 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論、基礎看護技術 I・II 医学書院
成績評価の方法	ループリック評価
備考	

授業科目名		担当講師名	対象学年
看護を知る実習Ⅱ		学内教員 実習指導教員	1年次
授業形態	単位(時間)	実習場所	学期
実習	1(40)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	入院生活の環境を理解し、対象とのコミュニケーションを図る。 看護師の活動を通して、行われている援助の必要性を理解し、日常生活行動の援助を安全・安楽に実施する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の入院生活の環境が理解できる。 2. コミュニケーション技術を活用し、対象とのコミュニケーションを図ることができる。 3. 看護の基礎技術を活用して対象の観察ができる。 4. 看護師の活動を通して、行われている援助の必要性が理解できる。 5. 日常生活行動の援助を安全・安楽に実施ができる。 6. 対象の反応を捉えて報告と記録ができる。 7. 看護師としての態度・姿勢を考える。 		
事前学習	共通基本技術・コミュニケーション、日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目	午前：病棟内オリエンテーション、受け持ち患者の説明、看護師の援助場面の同行 午後：コミュニケーション、カンファレンス
2日目	午前：看護師の援助場面の同行、コミュニケーション、バイタルサイン測定 午後：振り返り（援助場面に同行したことをもとに援助の必要性を考える）
3日目	看護師の援助場面の同行、コミュニケーション、バイタルサイン測定 日常生活行動の援助の実施、報告、カンファレンス
4日目	午前：看護師の援助場面の同行、コミュニケーション、バイタルサイン測定 日常生活行動の援助の実施、報告 午後：振り返り（行った援助の振り返り）、実習反省会
5日目	まとめ（学内実習） <ol style="list-style-type: none"> 1. リフレクション（対象の入院生活の環境、行われている援助の必要性、日常生活行動が安全・安楽に実施できたか） 2. リフレクションした内容を発表し、学びを共有する
履修上の要件	看護を知る実習Ⅰは終了している
テキスト、教材、参考書	基礎看護学実習要項 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 医学書院
成績評価の方法	ルーブリック評価
備考	

授業科目名		担当講師名	対象学年
看護過程実習		学内教員 実習指導教員	2年次
授業形態	単位(時間)	実習場所	学期
実習	2(80)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。		
学修内容	問題解決技法を活用し、対象の看護上の問題を抽出する。患者にあった計画に基づき安全・安楽に援助を実施・評価して次の実践につなげる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に必要な情報を収集できる。 2. 情報を分析し看護問題を抽出できる。 3. 患者にあった看護計画を立案できる。 4. 計画に基づき、安全・安楽に実施できる。 5. 実践した結果を評価し、次の実践につなぐことができる。 6. 看護師としての態度・姿勢を学び、自己の学習課題を明確にできる。 		
事前学習	看護過程の展開、ヘンダーソンの看護理論		

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目	学内にて実習オリエンテーションを行う。受け持ち患者様の事前学習
2～4日目	臨地実習 午前：病棟オリエンテーション、受け持ち患者様の情報収集、 午後：情報の整理、振り返り
5日目	学内実習にて受け持ち患者様の情報の読み取り、 看護問題の抽出、看護計画の立案
6日目～9日目	臨地実習 午前：受け持ち患者様の看護計画の実施、ケースカンファレンス、実習反省会 午後：実施後の振り返り
10日目	学内実習：リフレクション（看護過程の展開について・対象の反応から自分の関りについて）、実習のまとめ
履修上の要件	基礎看護学「看護過程」・看護を知る実習Ⅱは終了していること。
テキスト、教材、参考書	基礎看護学実習要項 系統看護学講座 基礎看護学1・看護学概論／医学書院 系統看護学講座 基礎看護学2・基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座 基礎看護学3・基礎看護技術Ⅱ／医学書院 ヘンダーソン看護理論の実践 ニューベルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ニューベルヒロカワ
成績評価の方法	評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
地域の実習		学内教員		1年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	1(40)	市町村、診療所 社会福祉協議会	後期	月～金	8:30～15:30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	地域の特性、地域に暮らす人々の自助・互助、地域包括ケアシステム 地域における保健活動・健康予防活動、多職種連携・協働				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に暮らす人々を理解する(多様な価値観・健康・生活) ・人間と環境は相互に作用し合い、健康や暮らしに影響することを理解する ・地域共生社会が目指す地域包括ケアシステムを理解する ・地域における多職種連携・協働の重要性を理解する ・地域に必要とされる看護師像を考える 				
事前学習	地域の特性 関係法令				

授業計画

No.	授業内容
1日目～4日目	1日目から、各実習先市役所、役場、社会福祉協議会、診療所での実習を行う 2日間：市町村 1日間：社会福祉協議会 1日間：診療所 各事業について同行・参加し市町村、社会福祉協議会、診療所の地域活動を学ぶ。
5日目	最終日に学内実習にて、リフレクションや学んできたことをまとめる。
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	臨地実習要項 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の基礎 医学書院
成績評価の方法	ルーブリック評価
備考	各実習施設への通学手段は学生各自で確保しておく 施設の駐車場を利用する場合は、事前に施設へ連絡が必要

授業科目名		担当講師名		対象学年	
在宅看護論実習		益田 祐子		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義	2(80)	大島郡医師会訪問看護ステーション 生協訪問看護ステーションあまみ ネリヤ訪問ステーション	前期 後期	月～金	8:30～15:30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	訪問看護ステーションの機能と役割、制度、サービスの流れ 療養者の多様な生活と価値観、生活環境や家族への視点 在宅看護のアセスメント(療養者と家族のニーズ、住環境、社会資源、家族・介護力のアセスメント、経済力)在宅看護過程の展開				
到達目標	地域で療養生活を送る対象と家族を理解し、在宅療養が継続できる支援を学ぶ				
事前学習	地域保健、介護保険等の法律について 在宅療養を支える看護Ⅰ、在宅療養を支える看護Ⅱにおける履修内容				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目	1日目は学内で、訪問看護ステーション実習について、教員のオリエンテーションを受ける
2～9日目	1. 学生は1事例受け持たせていただき、利用者の看護過程を展開する 2. ケースカンファレンスを実施する 3. 受け持ち以外の利用者宅を、訪問看護ステーションのスタッフとともに訪問し、訪問看護の実際を学ぶ 4. 訪問看護ステーション実習最終日に反省会を行う
10日目	最終日に、学内実習にてカンファレンス・リフレクションを行う
履修上の要件	地域を知る実習を習得していること
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項、系統別看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤、 地域・在宅看護の実践、 医学書院
成績評価の方法	在宅看護論実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	各実習施設への通学手段は、学生各自で確保しておく 施設の駐車場を利用する場合は、事前に施設へ連絡が必要 感染症の状況により変更の可能性があります

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人・老年看護学実習Ⅰ		林 なおみ 他		2年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(80)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	回復期またはリハビリテーション期にある患者の援助を通し、障害の適応また、日常生活の自立に向けた看護を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 回復期またはリハビリテーション期にある患者の身体的、精神的状態を理解できる。 2. 患者の健康障害と日常生活行動への影響が判断できる。 3. 日常生活行動の自立を目指した援助が安全に実施できる。 4. 患者がリハビリテーションに意欲的に取り組めるように援助できる。 5. 障害受容への心理的サポートができ、患者のメッセージを聴くことができる。 6. 退院支援にむけて多職種連携が理解できる。 				
事前学習	運動器疾患患者の看護、脳神経疾患患者の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
	<p>1日目：学内実習（実習オリエンテーション、事前学習）</p> <p>2日目～病棟オリエンテーション・受け持ち患者の情報収集。 受け持ち患者の情報を整理し看護問題を抽出。 看護問題にそって援助計画を立案・援助の実施・評価を行う。 2週目前半に受け持ち患者のケースカンファレンスを行う。 退院支援等を通じて多職種連携を学ぶ。</p> <p>10日目：学内実習（事例の振り返りとまとめ）</p>
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	<p>領域別実習要項</p> <p>系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院</p> <p>系統看護学講座別巻Ⅱ リハビリテーション看護</p>
成績評価の方法	成人・老年看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人・老年看護学実習Ⅱ		林 なおみ 他		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(80)	県立大島病院 大島郡医師会病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	慢性に経過し生涯コントロールが必要な成人及び老年の患者への援助を通して看護実践に必要な知識、技術、態度を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の発達段階をふまえて、身体的・精神的・社会的な特徴を理解する。 2. 患者の健康状態に応じた日常生活援助ができる。 3. 患者のセルフケア能力を向上する援助ができる 4. 患者に必要な社会資源を活用して、継続的に療養生活を支える方法を考える。 				
事前学習	循環器疾患患者・呼吸器疾患・内分泌疾患の看護 他				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～10日目	<p>1日目：学内実習（実習オリエンテーション、事前学習）</p> <p>2日目～病棟オリエンテーション・受け持ち患者の情報収集。</p> <p>受け持ち患者の情報を整理し看護問題を抽出。</p> <p>看護問題にそって援助計画を立案・援助の実施・評価を行う。</p> <p>2週目前半に受け持ち患者のケースカンファレンスを行う。</p> <p>退院支援等を通じて社会資源の活用・多職種連携を学ぶ。</p> <p>10日目：学内実習（事例の振り返りとまとめ）</p> <p>カンファレンス「慢性期患者の特徴と看護の特徴」</p>
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院
成績評価の方法	成人・老年看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
成人・老年看護学実習Ⅲ		林 なおみ 他		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(80)	県立大島病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	生命危機状態、手術を受ける患者を通してクリティカルなケアを必要とする成人の患者および老年の患者の看護を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体機能に急激な変化をきたしている患者の身体的・精神的状態を理解する。 2. 生体機能に急激な変化をきたしている患者の生活の援助ができる。 3. 生体機能に急激な変化をきたしている患者の苦痛の緩和ができる。 4. 回復を阻害する因子を明らかにして、回復促進に向けた援助ができる。 5. 手術を受ける患者の麻酔及び手術侵襲を理解し、回復に向けた援助ができる。 6. 生命維持管理・救命救急時の援助が理解できる。 				
事前学習	周手術期、クリティカルケア				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～10日目	<p>1日目：学内実習（実習オリエンテーション、事前学習）</p> <p>2日目～病棟オリエンテーション・受け持ち患者の情報収集。 受け持ち患者の情報を整理し看護問題を抽出。 看護問題にそって援助計画を立案・援助の実施・評価を行う。 2週目前半に受け持ち患者のケースカンファレンスを行う。 手術見学、救命救急センター見学実習を行う。 ME機器の見学を行う。 救命救急センター、手術見学、退院支援等を通じて多職種連携を学ぶ。</p> <p>10日目：事例の振り返りとまとめ</p>
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	<p>領域別実習要項</p> <p>系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学1～15 医学書院</p> <p>系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論、クリティカルケア看護学 医学書院</p>
成績評価の方法	成人・老年看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
老年看護学実習		脇田 真由美 中島 久代		3年次	
授業形態	単位(時間)	実習場所	学期	曜日	時限
実習	2(80)	虹の丘・奄美佳南園 めぐみの園 住用の園・芦穂の里	前期	月～金	8:30～15:30
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	地域や施設で生活する高齢者が医療・福祉とどのような関わりがあり、看護師として多職種とどのような連携をとり高齢者に関わるかを学ぶことを目的とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化をとらえることができる。 2. 高齢者の基本的生活行動および一日の過ごし方を把握できる。 3. 高齢者とよりよい人間関係を形成することができる。 4. 高齢者の健康障害・生活上の問題について理解し、日常生活援助ができる。 5. 施設・福祉事業などの継続看護の視点から多職種との連携の図り方を理解できる。 また、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割が理解できる。 6. 高齢者の生きがいをふまえ、自己の老年観について考えることができる。 				
事前学習	高齢者の身体・精神・社会的特徴、認知症のある高齢者への関わりとコミュニケーション方法、介護保険制度、老人保健、老人福祉法、介護老人保健施設及び介護老人福祉施設の特徴、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、在宅介護支援センター及び居宅介護支援センターの役割、地域包括ケアシステム、摂食嚥下障害のある高齢者の看護、				

授業計画

No.	授業内容
1日目～10日目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1日目、10日目は学内実習 2. 事前学習を提出する。 3. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設実習では、1人を受け持ち、コミュニケーションを図りながら、残存機能維持を考慮した日常生活援助を行う。 2) 高齢者の基本的生活行動および一日の過ごし方を知り、人間関係を深め、健康障害・生活上の問題について理解し、QOL向上に向けた日常生活援助を行う。 3) 通所リハ・通所介護・認知症対応型共同生活介護・支援センターで多職種との連携を学び、生活環境およびソーシャルサポートシステムについて理解するとともに看護師としての役割を理解する。 4) 援助を通して対象者の生き方・考え方を知り、高齢者をどのようにとらえているのかを理解する。
履修上の要件	
テキスト 教材 参考書	領域別実習要項 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院
成績評価の方法	老年看護学実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学実習 I		岸良 真奈美		3 年次	
授業形態	単位 (時間)	実習場所	学期	曜日	時限
実習	1 (40)	小宿保育園 春日保育園 のぞみ園	前期 ・ 後期	月～金	8 : 00 15 : 00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である				
学修内容	健康な小児・健康障害がある小児の成長・発達、家族の関わりを学ぶ。				
到達目標	1. 小児各期における身体的・精神的・社会的な発達の特徴を理解できる 2. 健康な小児、健康障害のある小児の日常生活を理解し、成長発達への援助方法を理解できる				
事前学習	乳幼児の成長発達、転倒転落のアセスメント 学習や遊び等				

授業計画

No.	授 業 内 容
保育所 (3 日間)	1. 健康な小児の成長・発達を理解し、望ましい保育について学ぶ
療育施設 (2 日間)	1. 障害児の成長・発達について理解を深め、保育者との関わりを学ぶ
履修の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学専門Ⅱ 小児看護学概論・臨床総論 医学書院 系統看護学専門Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院
成績評価の方法	小児看護学実習 I 評価表に基づいて、出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
小児看護学実習Ⅱ		岸良 真奈美		3年次	
授業形態	単位(時間)	実習場所		学期	曜日
実習	1(40)	県立大島病院 小児科病棟 小児科外来 NICU		前期 後期	月～金 8:00 15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による授業である				
学修内容	小児各期における特徴を理解し、健康障害を持つ小児やその家族の個別性をふまえた看護過程を展開し、必要な看護が実践できる基礎的知識、技術、態度を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の健康障害の特徴を把握し、対象に応じた看護過程の展開ができる 2. 健康障害や入院生活が小児と家族に及ぼす影響を理解できる 3. 小児を取り巻く医療、保健、福祉の連携の中で小児看護の役割を考察する 				
事前学習	小児の代表的な疾患 患児家族の看護、乳幼児の成長発達、バイタルサイン測定 乳児の身体計測 プレパレーション 転倒転落のアセスメント 学習や遊び等				

授業計画

No.	授業内容
小児科病棟 (3日) NICU (半日) 小児科外来 (半日)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習を提出する 2. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康障害を持つ小児及び家族を理解し、家族を含めた看護援助について学ぶ 2) 患児を受け持ち必要な看護について、看護過程を展開し理解する 3) ケースカンファレンスを行い、看護援助について適切か検討する 4) ハイリスク新生児について学ぶ 5) 小児が受ける医療サービスの実際を学び、医療保健福祉の連携について学ぶ 6) 小児特有の診療の補助技術について学ぶ(安全安楽な技術)
1日(学内)	1. リフレクションおよび課題学習を行う。
履修の要件	
テキスト、教材、 参考書	領域別実習要項 系統看護学専門分野Ⅱ 小児看護学概論・臨床総論 医学書院 系統看護学専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院
成績評価の方法	小児看護学実習Ⅱ 評価表に基づいて、出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
母性看護学実習		恵原 知恵 有田 敏子		3年次	
授業形態	単位(時間)	実習場所	学期	曜日	時限
実習	2(80)	県立大島病院 名瀬徳洲会病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、助産師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	周産期における母子の特性を理解し、母性および新生児の看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥および新生児の特徴と正常な経過が理解できる。 2. 産褥および新生児の援助を体験し母性看護技術の特殊性が理解できる。 3. 受け持ち褥婦・新生児への健康課題を理解し、褥婦・新生児への援助・指導のあり方を学ぶ。 4. 母性看護を通して自己の母性観(父性観)を深めることができる。 				
事前学習	妊娠期の看護、分娩期の看護、産褥期の看護、新生児の看護				

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～10日目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習を提出する。 2. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1～2週目は正常な経過をたどる分娩・産褥期の対象および新生児を受け持つ。 *男子学生は女子学生とペアを組み褥婦と新生児を受け持つ。 褥婦のケアや観察で実施できない場合もあるので、女子学生と情報を共有する。 2) 3週目は、機能別実習として外来(半日)実習や妊娠期の技術を見学および体験する。 3) 外来実習は1日1～2名、半日実習とする。 4) 分娩見学 <ul style="list-style-type: none"> ・産婦の許可をもらい1人1例実施する(女子のみ) ・男子学生は、産婦の許可をもらい帝王切開を見学する。
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 母性看護学Ⅱ周産期各論 医歯薬出版 病気がみえる vol10 メディックメディア
成績評価の方法	母性看護学実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
精神看護学実習		濱田 秀子		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(80)	奄美病院	前期・後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	精神に障害のある対象について理解し、精神看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科の治療環境・生活環境について理解できる。 2. 精神科医療の特徴が理解できる。 3. 対象の日常生活を観察し、精神障害が生活全般に与える影響について理解できる。 4. 精神に障害がある対象を理解できる。 5. 対象の日常生活行動を把握し、自立に向けて援助できる。 6. 対象が周囲の人々と交流が持てるよう援助する。 7. 行った援助を評価・振り返ることができる。 8. 対象との人間関係のあり方を通して自己の行動を振り返ることができる。 				
事前学習	精神看護の目的と意義、精神保健医療福祉の法制度、統合失調症／気分障害／てんかん／パーソナリティ障害 向精神薬の種類と主な副作用／多飲水／行動制限における看護				

授業計画

No.	授業内容
1日目～10日目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題を提示し、実習の事前学習を行う。 2. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 受け持ち患者看護 1名の患者を受け持ち、ヘンダーソンの理論に基づいて看護過程を展開する。 3) 演習 ・プロセスレコードを活用し、対象との関わりを振り返る。 4) カンファレンス 5) 5日目～9日目のあいだに1日学内実習にてリフレクションを行う
履修上の要件	
テキスト、教材、参考書	領域別実習要項 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 医歯薬出版株式会社 看護学生のための精神看護臨地実習 NOTE 中央法規
成績評価の方法	精神看護学実習 評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	

授業科目名		担当講師名		対象学年	
統合実習		学内教員		3年次	
授業形態	単位(時間)	教室等	学期	曜日	時限
実習	2(80)	県立大島病院 大島郡医師会病院	後期	月～金	8:00～15:00
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して知識・技術態度を統合して看護実践力を身に付ける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 2. 就寝前の患者の状況を知ることにより患者を総合的に理解する。 3. 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。 4. 既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高める。 5. これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にする。 				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1日目～10日目	<p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> ①管理実習：看護管理について臨床講義 病棟管理者の役割 ②複数患者を受け持つ看護師のシャドウイング ③複数患者(2名)を受け持つ実習 ④夜間実習 1日 (13:30～21:30) ⑤夜間実習の振り返り ⑥1日目、10日目は学内実習 2) 1グループ5名～6名 教員は1名配置 夜間実習は教員は巡回指導 3) 複数受持ち以外のケアは原則として実施しない。 <p>実習記録：実習計画、実習日誌、経過記録、看護管理レポート 他</p>
履修上の要件	<p>領域別実習はすべて履修していることが望ましい</p> <p>統合演習ステップⅠ・Ⅱは履修していること</p>
テキスト、教材、参考書	<p>領域別実習要項</p> <p>系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院</p> <p>医療安全ワークブック 医学書院</p>
成績評価の方法	統合実習評価表に基づいて出席状況、実習内容、実習記録、態度の総合評価
備考	